リングリングプロジェクトを訪ねて⑬

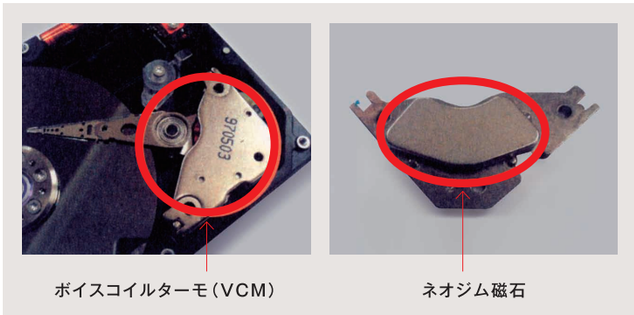
環境型社会における3Rの調査、普及につとめる

財団法人 クリーン・ジャパン・センター

財団法人クリーン・ジャパン・センターの調査研究のレポートや3Rに関する情報などが掲載されている『クリーン・ジャパン・ニュースレター』。
ニュースレターは、CJCのサイトからも確認できる。http://www.cjc.or.jp/

環境への配慮は、今や社会の必須事項。「3R」とは、リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)の3つのRの総称。この3Rに目を向け、省資源型社会の形成を推進するための先導的な事業に取り組んでいるのが、「財団法人 クリーン・ジャパン・センター(CJC)」である。

CJCは、経済産業省、日本商工会議所、日本経済団体連合会等の支援を受け、1975年11月にリサイクル推進ナショナルセンターとして設立。現在は主に、廃棄物処理やそのシステム構築についての調査研究や情報提供などの活動を行っている。



パソコンのハードディスク内に使われているネオジム磁石。

そのうちの一つ、「環境型社会における3Rに関する調査研究等補助事業」では、昨年度から、さまざまなテーマでの調査研究等を展開。まずは、「産業機械分野の3Rに係るレアメタル対策推進に関する調査」について、同センターの研究業務部 主席部員の塩田恭さんにお話しを伺った。

「温暖化対策として、ハイブリッド自動車や電気自動車などの普及が進んでいますが、レアメタルを使用した高性能磁石モーターやリチウムイオン電池等の二次電池は、テクノロジーの重要なカギとなります。そこで、レアメタルが今後どのくらい使われるのか、どうやって確保するのか、そのためにどのようなリサイクル技術を開発していけばよいかという調査を行っています」

レアメタルの中でもとくに注目しているのは、レアアースと呼ばれるネオジムやジスプロシウムなど。これらは次世代自動車だけでなく、省エネ家電などの基盤技術にも欠かせないという。しかし現在、レアアースは9割以上を中国に依存しており、中国輸出問題で資源確保への危機感が高まっていることも事実。CJCでは、「レアアースはほとんどがリサイクルされておらず、その技術やシステムを確立しなければならない」と考えており、こうした問題が起こる前からネオジム磁石に注目してきたという。

「ネオジム磁石はパソコンのハードディスク、携帯電話、エアコンや洗濯機など、身の回りの多くのものに使われています」というのは、同センター 企画調査部長の名木稔さん。

パソコンや家電などは、リサイクル法によって回収システムができあがっているものの、現段階ではネオジム磁石は鉄スクラップとして処理されている。

「回収の仕組みはすでにあるので、あと一手間加えればいい。そこで、私どもでは、磁力をなくしてネオジム磁石だけを簡単に取り出せるような技術開発の調査研究も行っています」

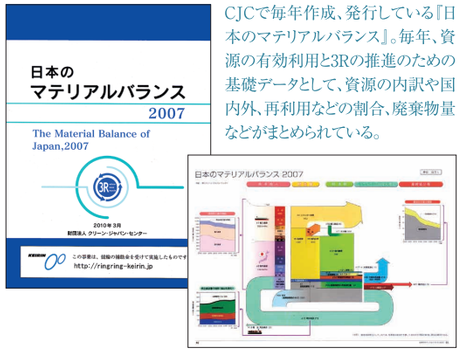
ところで、ごみの分別など、3Rを個人で実践している方も多いだろう。国内のごみの最終処分量は毎年減少しているそう。しかし、名木さんは、「一般の方々が直接関わるリサイクルの仕組みはほぼできあがっていると言えます。しかし、一般には目につかない部分に、専門的な課題が生じています」とも語る。

現在、家庭から出るごみの約85%が焼却されている。燃やすと当然灰が出るが、このごみ焼却灰の処理について、コストやCO2排出量などさまざまな問題が見つかったのだとか。そこでCJCでは、「ごみ焼却灰の有効利用促進のシナリオ」を作成。処分方法別の安全性やコスト、リサイクル品の品質やCO2排出量などを一覧にまとめた。さらに、今年度からは「リサイクルにおける低炭素化社会形成の促進に関する調査研究」もスタート。

「リサイクルの効果がよくわからないと言われますが、リサイクルした分、天然資源を使わずに済むことは確実です。リサイクルに必要なエネルギー量を計算したところ、『アルミ缶を捨てると、リサイクルする30倍のCO2が排出される』など、リサイクルが省エネルギー化につながることもわかっています」(名木さん)

環境に配慮し、資源を有効利用することは、これからの社会に課せられた重要な取り組み。CJCの調査研究が生かされ、循環型社会が近く実現することに期待したい。

(文・長谷川英子)



CJCで毎年作成、発行している『日本のマテリアルバランス』。毎年、資源の有効利用と3Rの推進のための基礎データとして、資源の内訳や国内外、再利用などの割合、廃棄物量などがまとめられている。

CJCでは、小中学生や地域社会に向けての啓蒙活動や環境リサイクル情報センターの公開なども行い、一般にも広く情報提供を行っている。

競輪マークみつけた

ゆうばりファンタ

2010年に20回という節目を迎えた日本有数の国際映画祭である「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭(ゆうばりファンタ)」。国内外問わず、幅広いジャンルの作品が集まり、毎年多くの映画ファンで賑わいます。ゆうばりファンタ最大の特徴は、映画監督や俳優といった映画人が一参加者として、夕張市民・観客と一緒に「映画」を楽しむというところ。映画を通じて、夕張市民・観客・映画人たちの間に新しい出会いが生まれます。

pedaru_13_p22-35out.indd 22-23
11.4.22 11:38:21 AM